

## 東京女子大学キャンパス整備計画の見直しをお願い

貴学の90周年、100周年に向けた、キャンパス整備計画が、貴キャンパスの始まりとなった旧東寮、旧体育館の取り壊しを前提にしたものとお聞きしました。ぜひ、計画を見直していただき、貴学の建学の精神を引き継ぐキャンパスの保全をもとにしたキャンパス整備計画の構築をお願いいたします。保全を進めることで、100年、200年先の学生は、先生方の英断を誇ることができると思っています。

貴キャンパスのプランニングに携わった、建築家アントニン・レーモンドは、創立者新渡戸稲造氏の建学精神をキャンパスに具体化しました。アントニン・レーモンドは、プラハ大学で建築を学び、1909年に、アメリカに移住し、20世紀を代表する世界的な建築家であるフランク・ロイド・ライトのもとで、帝国ホテルの基本計画に携わりました。1919年末、フランク・ロイド・ライトに伴い、妻ノエミと共に来日しました。その後、1973年の離日まで活発な活動を続けた建築家です。

第2次世界大戦の前後には、日本建築界をリードする建築家となる前川国男、吉村順三の指導に当たり、今も、世界で活躍する多くの建築家はその精神を引き継いでいます。

この7月には米国を皮切りに世界各地を周るアントニン・レーモンド回顧展が始まり、レーモンド夫妻の活躍は、世界的にさらに大きな注目を集め始めています。

貴学にとっては建学精神を映し出し、世界の建築界では重要なプロジェクトとして永く伝えていくことが切望される貴キャンパスの重要性をもう一度、考察いただきたく、保全をもとに、整備計画の見直しをご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

平成18年8月17日

学校法人 東京女子大学

理事長

原田 明夫 様

特定非営利活動法人 ライト建築アーカイブズ日本

代表理事 森 晃一